



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2011推進ニュース —介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

民医連の介護・福祉理念(案)「3つの視点と5つの特徴」の学習会を開催 「3つの視点と5つの特徴」を日常業務の実践にあてはめて理解を深める(山形)



6月25日（土）に、県連介護福祉部主催「民医連の介護・福祉の理念（案）」（3つの視点と5つの特徴）の学習会を開催しました。介護事業所の介護職を中心に看護師、ケアマネジャー、事務職員等33名が参加しました。

「民医連新綱領」で、介護・福祉が医療と並ぶ運動の本体として位置づけられました。また、全日本民医連39期総会方針で「介護・福祉の理念（案）」が提案され、介護の質の向上や職員養成のとりくみ等、日常の活動に活かしていくことの重要性と、具体的な事例や介護に対する思いを共有することを通して理念（案）を深める取り組みの具体化が提起されました。現在、今年10月に開催予定の「2011年度介護・福祉責任者会議」での決定に向けて、全国各地で学習と討議が進められています。

今回の学習会では、理念を表す「3つの視点と5つの特徴」について、講師の井田智氏（山形民医連介護福祉部部長）からレクチャーを受け、民医連の医療と介護・福祉は「利用者の生活を支える最後の拠り所」であることに確信を得ました。また、参加者が持ち寄った介護事例をもとに、「3つの視点と5つの特徴」について日々の業務での実践にあてはめて理解を深めました。持ち寄った各事例では、利用者が希望する生活を支えるケアの提供、他職種との役割分担や地域の人々の見守りによる支え等が特徴となっています。私たちの業務での多くの実践が、今回学習した理念にあてはまる取り組みであったことを振り返ることができ、やりがいと自信を培うことができました。

（山形民医連介護福祉NEWS 2011年7月4日より）

民医連の「介護・福祉の理念(案)」(3つの視点と5つの特徴)

3つの視点—

- (1) 利用者のおかれている実態と生活要求から出発し
- (2) 共同のいとなみの視点に立ち
- (3) 利用者の生活と権利を守るためにたたかう

5つの特徴—

- (1) 人権を何よりも大切にし、それを守り抜く実践（無差別性の追求）
- (2) 自己決定に基づき、生活史、その人らしさを尊重する実践（個別性の追求）
- (3) 生活を丸ごととらえ、生活を丸ごとささえる実践（総合性の追求）
- (4) 根拠に裏打ちされた実践（科学性の追求）
- (5) 利用者・家族、職員、ボランティアがそれぞれの立場で協力しあいながら、地域に根ざし、地域の中でひとりひとりの生活に寄り添う実践（共同のケア）

5つの特徴のうち、「個別性」「総合性」「科学性」の土台に「無差別性」（生存権の保障）をすえ、実践全体を「共同のケア」という考え方ですすめていくという整理です。「生活観」「高齢者観」「障がい者観」とあわせ、それぞれの内容や相互の関連について引き続き深めていくことが必要と考えます。

「大阪民医連介護職集会」で東日本大震災の取り組みから教訓を学ぶ 地域の困っている方の受入や福祉避難所の開設は民医連綱領の実践そのもの(大阪)

6月11日（土）に「大阪民医連介護職集会」を開催し、85名が参加しました。2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災は、津波による甚大な被害で大災害となりました。全国からは多くの仲間が被災地へ支援を行なながら民医連の連帯を確信しました。



今回の介護職集会では、「東日本大震災での介護支援活動から学ぶもの～初期対応、福祉避難所設立など民医連事業所の果たした役割～」について、海和隆樹氏（社会福祉法人宮城厚生福祉会事務局長）、相馬由里氏（宮城野の里福祉避難所・介護福祉士）をお招きし講演が行われました。

海和氏と相馬氏は、地震直後の生々しいスライドを交えながら、全てのライフラインが閉ざされ、余震が続く中での当時の状況と対応の経過について、職員が自転車で安否確認を行い、利用者・職員の安全と安心を確保して、途方に暮れていた職員へは「必ず、民医連と21老福連から食料も水も、人的支援も来る!!心配しなくて大丈夫!!」と言葉をかけ続けたことで、職員を勇気づけることができたと、震災当時を振り返りました。

地域からの要望に応えるため、県内で最初の「福祉避難所」開設を決意

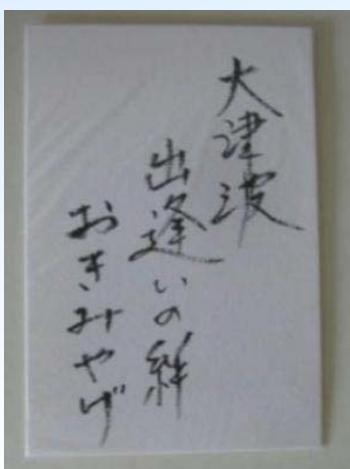
安否確認を行う中では、介護が必要な多くの高齢者の方や、認知症患者の方が避難所では隔離放置されている状況を目の当たりにし、震災から1週間程度の時期に、町会長や民生委員、避難所や地域の方々から要望があり、全日本民医連からの人的支援も決まったことで、福祉避難所の開設を決意し、3月19日に県内で最初の福祉避難所を設置した経緯が説明されました。福祉避難所を運営していく中では、本当に色々な部分で問題が浮き彫りになり、今回の経験を踏まえて、大阪の福祉避難所の規定等について確認を行う必要性が示されました。

また、避難所となった岡田小学校へ看護師の派遣依頼もあり、医療と介護・福祉の連携の優位性を発揮できたこと、地域からの信頼、医療・介護一体の評価が得られたことが報告されました。一方で、支援者受入の中で問題点や困難な状況のお話もありましたが、

「本当に全国の仲間から支えられた」と感謝の意が述べられ、今後は暮らしの面で困難に直面されている方々への生活を支えることや、震災前の生活に戻るための援助のあり方等が課題してあげられました。



福祉避難所に入所されていた方から「大津波 出逢いの絆 おきみやげ」の川柳



最後に、福祉避難所に入所されていた方から贈られた川柳「大津波出逢いの絆 おきみやげ」と、職員から「民医連の連帯と実践を今回の震災でまざまざと見せられ、そして体験した。地域の困っている方の受入や訪問、福祉避難所の開設、岡田小学校への看護師派遣は民医連綱領の実践そのものだと思う」といった言葉が寄せられたことが紹介されました。わたしたちも、これからも続く支援活動を通じて多くを学んでいくことが必要です。

講演後には、震災支援に参加した牧氏（同仁会）と西村氏（淀協）から支援報告が行われました。その中で、各法人で災害マニュアルの点検や見直しの必要性があることや、岡田小学校での看護師支援では、主に夜間対応のニーズが多く、避難所の方からは感謝の言葉を掛けられたこと等、当時の報告がありました。最後に矢島委員長から介護職部会の行動提起を受け、民医連一丸となって取組んでいくことを確認しました。

(大阪民医連 介護福祉ニュース Vol.3 2011年6月15日より)

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp